

若芽の出づる

(平成三年度寮歌)

柴田一君 作歌・作曲

一

若芽^{わかが}の出づる^い早春^{そうしゅん}に
孤影^{こえい}も辞^じせぬ若人^{わこうど}の
尖風^{せんふう}躰^{たい}を貫^{つらぬ}けば
漲^{みなぎ}る大志^{たいし}の息吹^{いぶき}有り

二

万物^{ばんぶつ}謳歌^{うた}う盛夏^{なつ}なれど
榮華^{えいが}の閨部^{あんぶ}忘^{わす}るまじ
凱風^{がいふう}四界^{しかい}を覆^{おお}へども
鬼哭^{きこく}の嘆^{なげ}きは芯^{しん}を凍^いて

三

紅葉^{こうよう}吠^ほゆる秋^{あき}の窓^{まど}
落葉^{らくよう}瓢^{ひさこ}の様^{さま}を見^みむ
疾風^{しつふう}怒濤^{どとう}の世^よなればこそ
真理^{まこと}の迪^{みち}を一筋^{ひとすじ}に

四

氷雪^{ひょうせつ}猛^{たけ}る嚴冬^{げんとう}は
心膽^{しんたん}練磨^{れんま}の時^じ節^{せつ}かな
烈風^{れつふう}大地^{だいち}を劈^{つんざ}けど
揺^ゆるがぬ我^{われ}らがこの宿居^{やどり}